一誌一句(受贈誌10・11月号他より)

米田 透 抄出

かなかなや夢の中より戻らねば	蛇穴に入る結論を出さぬまま	『新字源』の森をさ迷い月夜茸	蕗の葉の重なりあつて人は疎に	秋雷のあと金星が夜を統べる	豊秋の身をふるはせて赤子泣く	江戸つ子は将門贔屓牽牛花	人間も必死一匹の蚊を打ちて	樋鳴らす雀や梅雨の中休み	新月や十二神将働かす
(たか	(暖	全	(夏	(駒	(郭	(春	(菜の	(若	(四
たかんな)	響)	座	爐	草)	公	月)	の花)	竹	季)
吉田へ	江中	植 野	古田	西山	井上	戸恒	伊藤	加古	松澤
吉田千嘉子	真弓	順聞	紀一	睦	康明	東人		宗也	雅世